



改訂教科書紹介 Part.4 情報処理 新訂版 最新情報処理 新訂版

元東京都立江東商業高等学校教諭 小倉 俊悦

1. 科目の概要

科目「情報処理」は、グローバル化の進展、情報技術の進歩への対応という観点から、企業において情報を適切に扱うこと、情報デザイン及び問題の発見と解決の方法に関することなどが取り入れられている。また、**小学校でのプログラミング教育必修化に対応**するため、アルゴリズムとプログラミングに関する内容も追加されている。

2. 教科書の特長と工夫した内容

●改訂のポイント●

今回の新訂版では、**ソフトウェアのバージョンアップ**と、さらなる**使い勝手の向上**を目指した。『最新情報処理 新訂版』では、プログラミング部分の解説を大幅に増加させ、**マクロ言語やプログラム言語による記述を追加**し、「情報Ⅰ」の指導内容に踏み込んだものとした。また、『情報処理 新訂版』では、**ビジネス文書実務検定試験の改訂**に合わせて、用語等の大幅な見直しを行った。



●目指す人材●

「情報処理」は、**ビジネスの諸活動においての必要な資質・能力を育成**することを主眼とし、将来のスペシャリスト育成に必要な専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図り、**ビジネス文書の作成やプレゼンテーション**などを通して実践力を培い、**職業人として期待される人材**になることを目指している。

●2点発行の継続●

情報処理科や情報ビジネス科のように、ビジネス情報分野の学習を中心とする学校と、商業科や総合ビジネス科、会計科のように、ビジネス情報分野の学習を中心としない学校との間に、履修内容や到達目標に違いがあることから、各校の学習目標や授業スタイルに一致する教材を提供したいと考え、**今回も2点の教科書発行を継続**した。

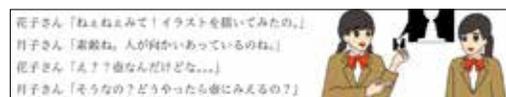
●2点の共通点●

①**すべてのページをフルカラー**とし、3章～5章の表計算・ワープロ・プレゼンテーションなどのアプリケーションソフトウェアの操作画面は、実際の画面をキャプチャーした図を多数掲載し、教科書でも同様の操作手順で実行結果を確認できるよう、利便性を向上させている。

②**1章1節3項「ビジネスとコンピュータ」**では、ビッグデータ・AI・IoT・スマート家電・コネクテッドカー・Fintech・暗号資産など、新しい用語の解説に加え、**DXの3つの段階**（①デジタルイゼーション→②デジタルイゼーション→③デジタルトランスフォーメーション）について追記した。

③**1章2節1項「情報社会の価値とモラル」**では、**メタバースやアバター**を新たに取り上げた。

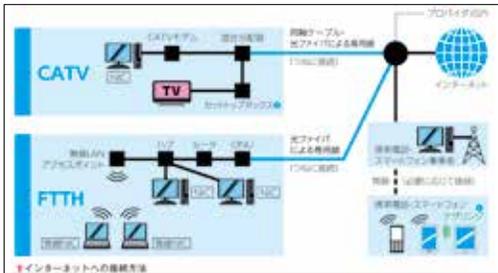
④**1章3節1項「情報デザインの重要性」**では、考察事例（ルビンの壺）でその重要性を認識させ、ユニバーサルデザインやアクセシビリティ、コミュニケーション手段の変遷についても、イラストを用いて具体的に解説している。



⑤2章1節1項「ハードウェア」では、目の前にコンピュータがあることを前提とした解説ではなく、コンピュータを活用する前に、コンピュータを利用して処理をする内容によって、使用するコンピュータを自分自身で選択できるように、考察事例を設定して学習の動機づけとしている。また、Web会議（ビデオ通話）やテレワークで必要となるWebカメラ、各種のインターフェース、RFIDやNFCなどについても記述している。

⑥2章1節2項「ソフトウェア」では、ユーザインターフェースとして、バーチャルリアリティ（仮想現実・VR）やオーグメンテッドリアリティ（拡張現実・AR）、ミックスドリアリティ（複合現実・MR）を新たに取り上げ、最新の情報技術の進歩への対応を図っている。

⑦2章2節3項「インターネットのしくみ」では、パケット交換やインターネットへの接続方法をイラストや図で示し、テザリングの解説を追記した。



⑧2章4節2項「セキュリティの管理」では、認証の組み合わせとして、多段階認証を追記した。

⑨4章1節2項「ビジネス文書の構成」では、記名押印と署名捺印の違いを解説し、検定基準の改訂に合わせて、頭語と結語の関係や時候の挨拶の例を書き改め、さらに電子メールにおけるpostscript（追伸）を取り上げた。

⑩各章の章末には「探究問題」を設けている。いろいろな解答が考えられる問題で、科学的な根拠に基づき、自ら自主的に探究し、創造的に解決する力を養うことができるようにしている。

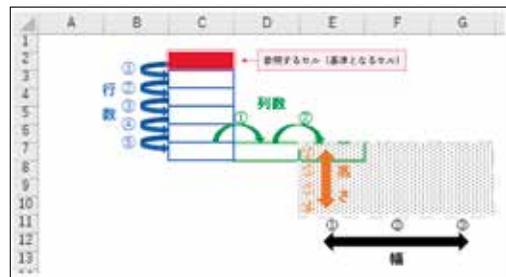
⑪どちらの教科書でも、全国商業高等学校協会主催のビジネス文書実務検定は1級まで、情報処理検定は2級までに、完全に対応しており、安心してめれなく指導できる内容となっている。

●2点の差別化●

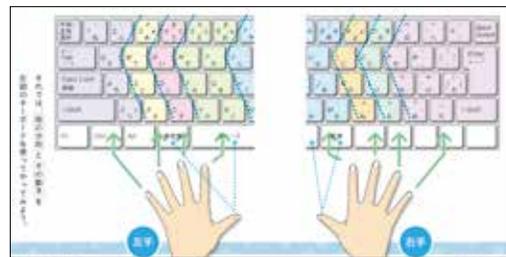
①各学科の学習目標や授業スタイルに対応できるように、表計算ソフトウェアで取り扱う関数やグラフ作成などの処理に差をつけている。

②到達目標の1つである全国商業高等学校協会主催の情報処理検定（ビジネス情報分野）に、1級まで対応と、2級まで対応で差別化を図っている。

③最新情報処理では、情報処理検定1級対応として「OFFSET 関数」を追記し、「Level up」や「発展学習」で、高度な内容が学習できるようにした。また、「ITパスポート試験」にも対応した。



④表裏見返しも差別化し、最新情報処理は「VR・AR・MR・AIや表計算ソフトウェアで使う関数の一覧」を詳しく記述し、情報処理はビジネス文書実務検定に対応した「通信文書での挨拶の例・ローマ字かな変換対応表・自他の呼び方・漢字の部首一覧・記号の読み・キー操作」、さらに、タイピングの練習がいつでもできるように見開き2ページで大きなキーボードを掲載している



3. メッセージ

科目「情報処理」は、ビジネス情報分野においてその根底を支える基礎科目である。この科目の内容を学習することで、商業科出身者が、一連の作業を通してのビジネス力に優れた人材、課題を創造的に解決する人材となり、これからのビジネス界で幅広く活躍することを大いに期待している。